

株式会社アトス・インターナショナル(ミュージック・エア)  
番組審議委員会 議事録

1. 日時：2021年6月17日(木) 15:00～15:45

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室(オンライン形式)

3. 出席者：(敬称略)

○番組審議委員

番組審議委員長 齋藤 純一(株式会社インプレスホールディングス 社長室 室長)  
番組審議委員 五十嵐 弘之(株式会社ドリーミュージック 取締役)  
番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)  
番組審議委員 佐藤 毅(ゼフロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)  
番組審議委員 田中 良典(一般財団法人ヤマハ音楽振興会 普及企画グループ シニアパートナー)  
番組審議委員 松山 梢(映画ライター)  
番組審議委員 望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 知的財産戦略グループ シニア アドバイザー)(書面参加)

<欠席委員>

番組審議委員 駒形 四郎(音楽評論家)  
番組審議委員 久保田 則好(Mustang Co., Ltd. 代表)

○放送事業者

株式会社シーエス・ワンテン  
代表取締役社長 福田 泉  
編成局長 谷 俊之

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル  
堀口 昭典(代表執行役員社長)  
井上 靖(取締役兼執行役員)  
木村 俊央(メディア企画部 メディア・グループ ミュージック・エア担当プロデューサー)

4. 放送事業者から説明

株式会社シーエス・ワンテンより110度CSの概況について

5. 報告事項

①ミュージック・エアの編成方針・内容

ミュージック・エアは大人のための良質な音楽番組を放送するチャンネルとして、往年の洋楽を中心としたSA級の大作アーティストの番組を放送。

コロナの影響でインタビューなどオリジナル収録番組が減っているが、海外番組については、毎年仏カンヌで開催されている国際コンテンツ見本市MIPCOMがオンライン開催され、取引のオンライン化も進んでおり調達に影響はない。

音楽ジャンル割合としては、洋楽ロック・ポップスが75%、海外ジャズが10%、その他オリジナル番組が15%。洋楽ロック・ポップスの年代は'50年代以外はほぼ同割合となっている。視聴層

としては50代男女が最も多く(スカパー視聴データ)、このことから視聴年齢層に合った番組編成になっている。

## 6. 番組内容審議

### <番組概要説明>

#### ① キーファー・サザーランド：ベルリン・ライブ2019

日本でも旋風を巻き起こした大ヒット海外TVドラマ『24』主人公のジャック・バウアー役で知られるキーファー・サザーランドがカントリー歌手として2019年にドイツ・ベルリンで行ったライブ。

本作は昨年10月の日本版『24 JAPAN』のスタートに合わせて、ミュージック・エアで日本初放送。また“ベルリン・ライブ”はシリーズ番組でもあり、2015年より5シリーズ、計72本のライブがイギリスで制作された。ミュージック・エアでは、全シリーズ・全作品を日本初放送。

60分番組 制作年：2019年（初回放送日：2020年10月11日／日本初放送）

### <委員からの意見>

◆僕がレコード会社に就職した頃から、カントリーミュージックは日本のマーケットには受け入れられないという定説？があり、日本のレコード会社は、積極的なプロモーション活動を全く行っていません。

スタッフの中にはカントリーファンもいるにも関わらず（僕もそのひとりです）、アメリカを代表する音楽がなかなか日本に紹介されないのは寂しいことだと思っていたのですが、このような入口からの紹介もありですね。

このようなことをきっかけにカントリーミュージックが日本に広く紹介されていくことを大いに期待します。

それだけ、未知のジャンルでもあるので、広がっていく余地は十分にあるのではないのでしょうか。

◆コロナ禍の中、ライブステージの映像はものすごく魅力的に感じる。キーファー・サザーランドの音楽はカントリーというよりサザンロックと言った方が正しいと思うが、米本国ではカントリーというレッテルを貼った方が売れるので、大抵のものをカントリーとして扱っているのだと思う。それが仇になって日本では売れないことになってしまっている。

パッケージ販売からデジタル販売の形に日本でも移り変わっていった、デジタル時代では洋楽がもっと注目されるようになるという声が多い。洋楽市場が活性化することを期待している。番組で気になった点は、ステージ上に置いてあったウイスキー(J&B)はスポンサーシップの関係だと思うが、キーファー・サザーランドは南部の人間で曲のタイトルにもある「WISKEY」でEが入る。J&Bはスコッチなので「WISKY」。細かいことだが、マニアが見ると矛盾を感じる。

もう1点、キーファーだけがワイヤレスマイクだったので、どこかでハンドマイクに持ち替えて歌ってくれると思ったが、最後までスタンドだったのが残念。

歌詞の字幕がなかったが、何か意味があるのか。カントリーの魅力は歌詞の内容だったりもするので、(字幕があった方が)視聴者に伝わるのではないか。

◆視聴者を増やすという意味では今一つ地味。キーファー・サザーランドのネームで(視聴者を)もってくるというのはあるかもしれないが、よほどの音楽好きでないと続けて最後まで見ているのは厳しいのではないか。

他の(ベルリン・ライブの)ラインアップをみるともっとおもしろい人もいたが、今日審議されるもう1本の方に比べてかなりマニアックな深掘りをしたシリーズだと思う。ミュージック・エ

アらしい番組ではあるが、何かコピー等フックがないと、こちら(ミュージック・エア)を向いているファン以外に訴求するのは難しいと感じた。

- ◆ターゲットが絞りにくい。俳優人気とミュージシャン人気はイコールではないという感想をもった。ミュージシャンから俳優になるのは意外と受け入れられるが、俳優がミュージシャンをやった時にどれだけ訴求力があるかという、ジャック・パウアーが演奏しているから見たいという人がどれだけいるか気になった。  
それと歌の字幕が入っていなかった点が気になった。

- ◆キーファーが歌を歌っていることを知らなかったのも、いい意味でサプライズだったし、意外にも小さなライブハウスでアットホームな雰囲気でお酒を飲みながら歌っている姿は、俳優の顔しか見たことがなかったので、歌もうまくとても魅力的だった。

日本のリメイクドラマのタイミングに合わせたのはとてもよかったと思うが、歌詞のテロップがなかったのは権利関係の問題なのかかわからないが、訳詞が難しければ英語のままでもテロップがあった方がよりわかりやすく、音楽の世界観に入れると思った。

- ◆日本でカントリーがなかなか流行らない理由を知りたいと思っている。自分はカントリーとカントリー・ロックが好きなので、このような放送があるのはたいへんうれしい。

ただ、ジャック・パウアーが歌っているというような導線のあり方は、思ったほど効果がないのではないかと。アメリカでカントリーが支持されている理由がどこにあって、だからカントリーって素敵なんだというくくりで番組の中で紹介されていくのならありだと思う。

ライブだけよりも例えばインタビューに答えているシーンが入っていたりした方が見ごたえがあったと思う。

国内ではなかなかカントリーが流行らないのは皆さんご存じだと思うが、2019年まで熊本で「カントリーゴールド」というイベントを大々的にやっていたが、来場者の高齢化により終了してしまった。カントリーファンは一握りだが国内にもいると思うので、カントリー・ロック、カントリーを日本人にわかりやすく紹介する施策がほしい。

番組自体はライブも内容も楽しめたが、新しいファンを獲得していく、あるいは視聴者を引っ張ってくるという意味ではちょっと工夫が必要なのではないかと。

- ◆キーファー・サザーランドがカントリー歌手だとは知らなかったのが驚いた。アメリカの音楽シーンがラップ系一色になっている中、カントリーというか、サザンロックというか我々の世代にはこのような音楽はとても新鮮でいい感じに聴けた。このような形でカントリーを紹介してもらったのはよかったと思う。

#### <番組供給者からのコメント>

- ・ミュージック・エアでは今回、俳優ものという新しい側面を打ち出したが、皆さんのおっしゃるように俳優人気と音楽の人気はイコールではない。また全体的に地味だというご意見は今後の編成に活かしていけたらと思う。
- ・この「ベルリン・ライブ」は2015年から5シリーズ、72タイトルがイギリスで制作されており、他のタイトルではインタビューが入ったものも多く、このキーファー・サザーランド回はライブにフォーカスされている。
- ・従来、ミュージック・エアでは他のライブ番組でも歌詞のテロップは入れていないが、歌詞のテロップがあった方がいいというご意見が多かったので、こちらも参考にさせていただきたい。

② ロック歴史秘話～Rock Legends～Ep19 AOR▽スティーリー・ダン、ドゥービー・ブラザーズ、ボズ・スキャッグス

<番組概要説明>

ロックをジャンル別に紹介するドキュメンタリー・シリーズ番組。19話目は大人向けのロック音楽“AOR”を特集。AORを代表する「スティーリー・ダン」「ドゥービー・ブラザーズ」「ボズ・スキャッグス」の3組のバイオグラフィを紹介し、彼らの代表曲などの映像を交えてその魅力に迫る。本作はシリーズ10内の作品になり、ミュージック・エアで日本初放送。シリーズ1～9まではアーティスト別のドキュメンタリーが制作されてきたが、シリーズ10は、初めてジャンル別で制作された。ミュージック・エアでは、全シリーズ・全作品を放送予定  
30分番組 制作年：2020年(初回放送日：2020年11月10日／日本初放送)

- ◆1960年代生まれの我々にとって、この時代のこのジャンルの音楽は、当時のビートルズ、ストーンズに代表される「不良」「荒々しさ」を象徴するロックとは対極の「大人」「洗練さ」を象徴する音楽で、大人に憧れて背伸びをして聴いていた頃を思い出す涙モノの映像ですね。基本的にレコーディングアーティストである彼らのライブ映像を見れる機会は貴重で、我々世代にとってはもちろん、是非若い人たちにも見てもらいたい番組です。数年前に弊社からAORのコンピCDを発売した際に、若い人たちからの人気の多い事に驚いた記憶があります。AORは、感性の尖った若いクリエイター達にもファンが多く、SNS、サブスクリプションへの番組プレイリストの提供なども通じて、このような良質なチャンネル、及び番組を視聴してもらいたいものです。
- ◆シリーズの最初では説明があったのかもしれないが、(この番組の)MCをされているお二方が誰だったのか最後までわからなかった。また、しゃべり口調からイギリスで制作された番組だとはわかったが、それも番組の中では明確ではなかった、番組タイトルに「AOR～」とうたっている割には番組の中では一度もAORという言葉は出てこなくて、「ジャズ・ロック」という言い方をしていた。その辺の辻褄合わせをどこかでされていたらよかった。ドナルド・フェーゲンが「ブリル・ビルディング」に曲を持って行ったという話しがあったが、ブリル・ビルディングが音楽会社の集まったビルという説明があると見ている人たちもピンとくると思った。
- ◆あまり深堀りはされていないが、チャート式のように3つのアーティストが短い時間にうまくまとめられていて、攻め方によっては若い人に入門で聴いてもらうには、すごくいい番組になっている。自分もこの3アーティストは好きだが、好きの箱が違っていて決して1つにまとめられない。それが1つの番組で紹介されていて、ジャズ・ロックというくくりはとても新鮮な驚きがあって楽しく見ることができた。同時にジャズ・ロックというくくりは何なのかが気になった。タイトルのAORは今の人に訴求するにはいいが、そこへ流れていくくぐりをちゃんと説明してあげた方がわかりやすい。
- ◆ドゥービー、スティーリー、ボズの3人のピックアップが絶妙だと思って楽しく拝見した。AOR自体が日本だけのジャンル分けなのは知っていたのでわかったが、ジャズ・ロックについて少し(説明が)あった方がよかった。可能性を感じたのは、今、日本でシティ・ポップが大ブームになっていて、ラジオでも2週に渡って特集が組まれることも結構ある。AORはシティ・ポップの教科書で、AORのいろいろな曲

からピックしていると思うので、シティ・ポップの基になったAORというジャンルから深堀っ  
ていけば、シティ・ポップファンからAORという新しい流れができるのではないかと感じた。

- ◆AORというジャンルがこういうものだと初めて知ったが、ロックとかAORを知らなくても歴史を知ることができ、30分というコンパクトな番組でさらっとマニアック過ぎない内容がビギナーにもとてもわかりやすく、興味深いドキュメンタリーだと思った。

3組のバンドは聞き覚えのある曲もあり、好みだったのでApple Musicでダウンロードした。入り口としてこういう番組があるといいと思ったのと、音楽はジャンルの境界線を超えて影響し合うものなので、ブラック・ミュージック、R&B、レゲエ、ヒップホップ等の歴史秘話ものもあったら見たいと思う。

- ◆ドゥービーはマイケル・マクドナルドだけだったが、この3組で何年か前に来日コンサートをやっていた。当時はなぜこの3組でやるのかと思っていたが、こういうくり方でいくんだと感じたのとジャズ・ロックというジャンルはどこまでなのかという疑問をずっと抱きながら見ていた。スティーリー・ダンはずっと深堀りしたものを見たかったが、(全体としては)程よく深堀りされていた。

スティーリー・ダンは若手のミュージシャン系にも今だに支持があるので、こういう番組をやっていることを世の中の人にSNS等を通じていろいろな人たちに広げて見てもらうための放送前の努力が必要だと感じた。

- ◆これぞミュージック・エアという番組でとてもよかった。私の年代には懐かしく、若い人たちには新鮮でいい感じにウケるのではないかと。若い人を引きつけるにはSNS等で宣伝、広報的なアプローチをして、引き込む努力をした方がいい。年配者は好きなので放っておいても来ると思う。これからのミュージック・エアは歴史的にいい時代の音楽をやっているのだから、そこを売りにしていくことが必要。お金のかからない広報、宣伝を頑張っていたきたい。

#### <番組供給者からのコメント>

- ・この番組の原題は「ジャズ・ロック」となっているが、日本で放送した時にピンとこないというかわかりづらい方も多いいと思ひ、日本人に馴染みのある「AOR」というタイトルにした。番組内ではずっとジャズ・ロックで、AORについての説明もないのでわかりづらい視聴者は多かった可能性はある。今後は放送前の努力等も含めて考えていきたい。

以前にもスティーリー・ダン、ドゥービー・ブラザーズ、ボズ・スキャッグスの3組が揃ったデュークス・オブ・セプテンバーのライブを放送し、好評で特にスティーリー・ダンはミュージック・エアで人気の高いアーティストであり、(今回審議いただいた)この番組も視聴者に刺さるのではないかと考思っている。

- ・ブラック・ミュージック等の歴史秘話も見たいというご意見があつたが、このロック歴史 秘話シリーズはロックというものを広い意味でとらえており、実はヒップホップ他のジャンルもある。今後のシリーズでは新しいジャンルが紹介できると考思っている。

#### <質疑応答>

Q1：音楽番組を放送する際、プロモーション協力の可能性や関係者への視聴告知を目的に事前に関連しているレコードレーベルに連絡はするか？

A1：過去に行っていた時期はあるが、プロモーション協力が得られないケースも多く、効率を考えて現在は行っていない。



- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：  
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和3年6月17日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：  
令和3年7月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上